

第25回太平洋諸島フォーラム(PIF)域外国対話における

鈴木外務副大臣(総理特使)演説

平成25年9月6日

マジュロ, マーシャル諸島共和国

ロヤック大統領閣下,
ご列席の皆さま,

(1. 冒頭)

- 1989年以来、四半世紀近い歴史を刻んだこの域外国対話が、日本の隣国であるマーシャル諸島で開催されることを、お喜び申し上げます。この場を借りまして、議長国・マーシャル諸島の政府と国民の温かいもてなしに、改めて、感謝申し上げます。
- 我が国は、太平洋島嶼国との関係を重視しており、その姿勢を明確に示すために、今回、安倍総理は、私を自らの特使としてこの会合に派遣しました。

(2. 気候変動への日本の取組)

- 私は、今回、初めてマーシャル諸島を訪れ、明るい海と白い砂が魅せるコントラストに、深い感銘を受けました。この美しく豊かな島々を、子や孫の世代に引き継いでいかなければなりません。ロヤック大統領のリーダーシップの下、今回の太平洋諸島フォーラム(PIF)の主要議題である気候変動問題は、太平洋島嶼国や日本を含む全ての国の、安全保障と経済発展に対する脅威です。先ほど説明のあった、「気候へのリーダーシップに関するマジュロ宣言」の採択を高く評価します。

- 気候変動問題に対処するためには、全ての国が参加する、公平かつ実効性のある新たな国際枠組みの構築が不可欠です。新しい枠組みの構築に向けて、今後とも、太平洋島嶼国と協力していきます。
- 同時に、日本は、同じ「島国」として、我が国の先端技術を活用した再生可能エネルギー導入の支援をはじめ、島嶼国のニーズを踏まえた具体的な支援を、一つ一つ形にしていく考えです。
- また、日本は、小島嶼開発途上国（SIDS）の力強いサポーターであり続けます。2012年までの約3年間に実施した2・4億ドルの支援、再生可能エネルギーや省エネルギーの促進を支援するSIDS-DOCKプログラムへの拠出等、具体的な行動を以って、気候変動の影響の緩和や適応のため、島嶼国各国とも協力して参りました。来年サモアにおける第3回SIDS国際会議の成功に向けて、島嶼国と緊密に連携していく考えです。

（ 3. 太平洋島嶼国との連携強化 ）

- 気候変動問題における日本と島嶼国との結びつきは、数ある協力の1分野に過ぎません。日本は、太平洋・島サミットを通じて、島嶼国とのパートナーシップを深めてきました。昨年シツズの第6回太平洋・島サミットでは、海洋や防災など、協力の5本柱を策定し、現在、日本はこれに基づき着実に協力を進めています。
- 来る10月には、東京と仙台で、前回のサミットのフォローアッ

プを行い、次回サミットの方向性を議論する、第2回中間閣僚会合を開催いたします。ぜひ、PIF各国外相には訪日いただき、東日本大震災から復興しつつある東北の姿を見ていただくとともに、気候変動や防災を始めとする共通の課題の解決に向け、議論を深めたいと思います。

- 日本は、太平洋に抱かれた「島国」という地理的特性とともに、気候変動や自然災害への対応、豊かな海洋の平和的・持続的活用等の課題を共有しています。同じ太平洋を共有し、同じ課題を抱える日本と島嶼国は、自然なパートナーです。「共に働く仲間の一員」として、課題解決に共に取組むことで、この地域における日本の役割を一層強化していく考えです。
- We are Islanders! ウィー・アー・アイランダーズ 太平洋の島国である日本として、この地域全体が、共通の目標とビジョンの下に、力強く発展することに貢献していきます。
- ご静聴、ありがとうございました。

(了)